

三滝だより

NO. 270

2024年3月15日発行



もうすぐ桜の季節です！

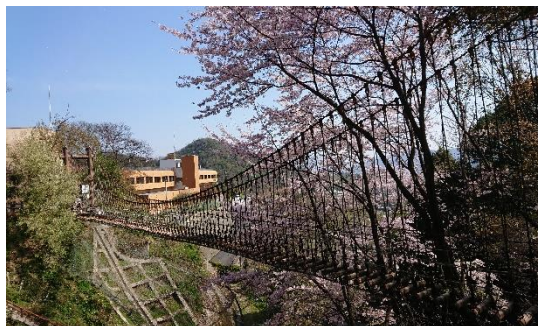
もうすぐ4月がやってきます。

春といえば新しい年度の始まり、

入学、入社きせつの季節です。

ところで春に咲く花といえば桜が思い浮かびますよね。春になる

と桜並木を散策したり、桜の木の下で花見をしたりしている姿をあちらこちらで見かけます。人々はなぜ桜の花が好きなのでしょう？寒い冬が終わり、待ちこがれた春の訪れと重なるからでしょうか。咲き始めてから三分咲き、五分咲き…満開、そして散るまでの期間が短く、あっという間に散ってしまうので、いとおしさもあって愛されているのかもしれないね。学校では入学式しきといえば桜の花が満開で祝ってくれる景色が連想されますが、近年はもう散ってしまっていることが多いですね。広島市でも10年くらい前から桜が咲き始める日は3月20日～3月25日の年が増えていよう。やはり地球温暖化の表れなのでしょう。

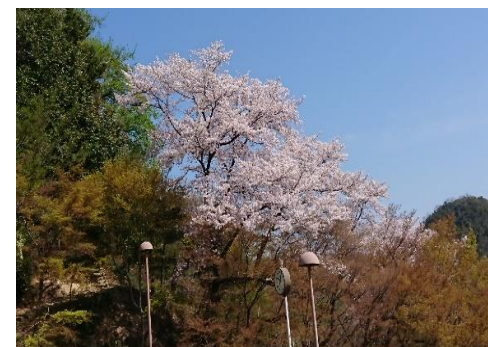


『ぼうけんばし』ふきん

ところで桜にもいろいろな種類しゅるいがあります。なかでも最も多いのが「ソメイヨシノ」で公園や川岸の道でよく見かける桜です。「さくら」と言えばこのソメイヨシノを思い浮かべますが、この桜は大島桜と江戸彼岸桜の交配種おおしま えどひがん こうはい(人工的につくられたもの)だそうです。桜の種類は世界中で数百種ありとされ、中にはソメイヨシノのように異なる種類の桜を交配させて作られたものもたくさんあります。

桜の中でも早咲き桜として有名な河津桜(カワヅザクラ)は、2月頃には開花し、1ヵ月も咲き続ける特徴があります。濃いピンク色の花をつける桜です。他方、八重桜(ヤエザクラ)はほかの桜よりも開花が遅めの桜です。広島でも4月下旬から連休頃に咲き、桜の見納めになります。

山間に自生する桜の総称であるヤマザクラは、日本固有種のひとつとして今も多くの人に親しまれる品種です。3月下旬から4月にかけて見頃を迎え、大きいものだと30メートルにも伸びるそうで桜の中でも高木に分類されます。三滝少年自然の家のまわりにも遊歩道沿いにヤマザクラが自生しています。遠くから見てもピンク色の桜はきれいですが、時間があれば歩いて眺めてみてはいかがでしょうか。



『ゆうあいひろば』より

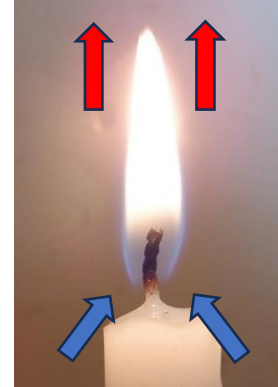
ひ 火について

三滝少年自然の家では、キャンプファイア、野外炊飯、火起こし体験など多くの場面で火を使用します。昔の人は、火を大切にしました。料理をしたり、火を灯したりと、火が生活に欠くことのできないものだったからです。その火が人間と獣を分け、私たちの文化を築く源となりました。光と熱を与えてくれる火の姿は、私たちに思いやりの心を教えてくれます。



ところで、火はなぜ上に向かっていくのか知っていますか？
それには、重力が関係しています。例えば、地上でローソクに火をともしると火の周りの空気は暖められ、暖められた空気は軽くなるので上にのぼっていきます。その空気の流の影響で、火は先のとがった形になります。そして、斜め下からは、新しい空気が入ってきて火は燃え続けます。

反対に、無重量状態（重力が働かなくなった状態）では、暖まった空気も冷たい空気も、どちらも重さは無く、空気の流れは起こりません。そのため、火は上には向かっていかずに半球状になります。そして、空気の流れが無いので、火の近くにあった酸素はすぐに消費されて、火は消えてしまいます。



地上での空気の流れ



無重量状態での火のイメージ図

私たちは、地球に重力があるお陰で、燃え続ける火を使うことができているということですね。

ちなみに、酸素がほとんどない宇宙空間で太陽が燃えているように見えるのは、水素というガスが核融合反応というものを起こし、光輝いているからです。不思議



ですね。

公益財団法人広島市文化財団
広島市三滝少年自然の家・広島市グリーンスポーツセンター
〒733-0802 広島市西区三滝本町一丁目73番地の20
TEL082-238-6301 FAX082-238-6302
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/mitaki-c/>